

— 岩上・矢口・小田 歴史マップ —



このマップは、地域の歴史に関心をもつ市民が、地域探訪などをとおして資料を収集し、1年あまりかけて作成したものです。

昭和40年代からすなわち開発により、多くの遺跡や古墳が出土している「ロマンの香りが漂う」この地域を、より多くの人に探訪してより足がかりとなればと願っています。

みなさんこのマップを手にとり、まちの歴史にふれてみてください。

- 表面：安佐北区口田地区（小田、矢口）及び落合地区の一部（岩上）について、主な遺跡や古墳などを中心に散策コースを紹介しています。
- 裏面：昭和初期に詠まれた口田村十勝の詩歌をもとに、当時の景勝地や消滅した建物・場所などを紹介しています。

※=トイレあり

●移動時間は、大人の平均的な歩行時間で設定しています。



いわのうきえ はちまんにんどう

① 岩上八幡神社
 文明年代（1469年～1486年）の建立といわれるが、詳細は不明。神社の北側の木立の中に貝塚（岩の上貝塚）がある。

いづみとくろひんがんにんどう

② 土井迫黄幡神社
 狩留家湯飯の荘園領主大幡公郎により天平12年（740年）に建立し、延元元年（1069年）に岩の上池田に移祀したといわれる。

いわのうきえ びんどう

③ 岩上観音堂
 廃寺跡ともいわれ、観音菩薩を祀り明治35年（1902年）に再建。昭和59年（1984年）に改築。周辺住宅団地の造成により現在地に移転修復。

いわのうきえ びんどう

④ 八咫神社
 京都・八咫神社の流れをくみ、素戔鳴命を祀り、疫病からの回避を願い「お低屋さん」と呼ばれる。地域の人々の信仰の対象となっている。

いわのうきえ びんどう

⑤ 岩上開尊堂
 昔は土井池田の「元成寺」と呼ばれ明治の頃にこの地に移り、浄土真宗の脱教場であった。平成9年（1997年）に建て替えられ、現在は集会所として利用されている。

※岩上八幡・素戔鳴命・開尊堂の3つは、同じく境内に建ててある平野式部氏の墓

すまがひつ いはきふ

⑥ 末光遺跡群
 「ハライフ高陽団地」の開発で発掘。弥生時代後期の5群から成る遺跡群とみられ、堅穴住居跡・土庫遺跡・貝塚などがみつかっている。団地の西端には、岩上城の山城の跡が存在していたことが確認されている。

※遺跡造成により消滅しているため、現在その姿を確認することはできない。

すまがひつ いはきふ

⑦ 梨ヶ谷遺跡
 弥生時代後期とみられる住居群と集団墓とで構成される。広島市内でも比較的大規模な集落跡。河原石を積んでつくった石室を持つ墓や土器・石器・土製玉などのほか土葬棺蓋から人骨も出土している。

※石棺・石の灰入り。もっぱら埋葬用と見てよい。

<住居跡>

<石室>

とんかんぼ
 <土器棺蓋>
 土器を棺に使った墓。主に乳児用と考えられており、中から人骨が見つかった。

※遺跡は埋め覆され、現在その姿を確認することはできない。立ち入り不可。

※写真提供：広島市文化財団

あひがひじやま あんげん

⑧ 西願寺山墳墓群
 弥生時代後期と考えられる5群から形成。うち2群が昭和49年（1974年）に県史跡指定を受け現地に復元保存。隣接する西願寺山遺跡（現在は消滅している）とも石室に多数の河原石使用が特徴。

つるぎのふ

⑨ 月野瀬神社
 1000年以上の歴史がある、口田地区で最も古い神社。別名「月野瀬加茂大女神」といわれこの地が大明地と呼ばれる。祭神は龍神・雷神ともいわれ、この神の怒りに触れると大雨・雷電を被るとの伝説がある。神社周辺には、弥生時代後期の遺跡が数多く見つかった。

神は龍神・雷神ともいわれ、この神の怒りに触れると大雨・雷電を被るとの伝説がある。神社周辺には、弥生時代後期の遺跡が数多く見つかっている。